

住まいのホームドクターであり、建築主の代理の立場です

私たちは地域に根ざした住まいづくりを考えています。建築家に依頼すると、ややもするとその建築家の考え方が色濃く出過ぎてしまうことがあります。住まいづくりは、建築主と設計士と施工に関わる方々の共同作業がうまくいってこそ良いものが出来上がります。個性的で愛着のある住まいを造るためには、住まい手の参加が重要です。また、設計事務所は施工を請負いません。施工を請負わないことにより初めて、建築主のために本当に良い提案ができるのです。住まいを造ることは、高価な材料を使うことのみで実現できません。請負い金額が上がることにより利益が上がる立場ではまずいのです。



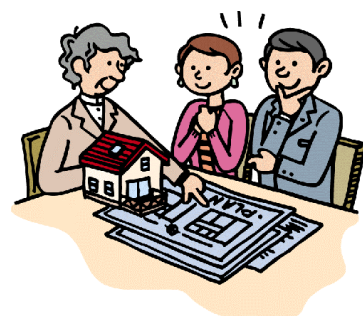
建設計画前から相談にのります

住宅の建設計画は突然必要となることも良くあります。子どもの転校の問題、職場の転勤の問題、引越しの季節の問題、新年を新居で迎えたいなどさまざまなケースがありますが、短い期間では自分にあった、将来性まで考えた住まい造りは難しいように思います。私達が設計を依頼される場合で、計画や設計に必要な期間はもちろん、狂いのない、耐久性の高い住宅を作る施工期間すらも足りない場合もあります。このような状況では、より良い住まいなど望みようもありません。そのため、私達は、いつでも住宅について楽しく学んでいただくために数多くの書籍やビデオ、資料などを取り揃えております。書籍などはもちろん無料でお貸しします。また、相談にも無料でのらせていただきます。具体的な計画を行なうまでは費用は一切必要ありません。土地の購入などのアドバイスもさせていただきます。土地の良し悪しは広さや価格だけではありません。建築に関わる法律や地盤の問題など、分かりにくいことも数々あります。反対に、変形した土地や傾斜のある土地などで価格の安い場合もありますが、ハウスメーカーなどの自在性の少ない建物を建てる場合でなければすごくお買い得のケースもあります。住まい手と設計士との相性も重要です。いろいろと相談や雑談を繰り返しながら、設計を依頼したいなあと感じた時はぜひとも設計の仕事を発注いただければ幸いです。



施主とのコミュニケーションを重視します

設計事務所の考え方が色濃く出る場合もありますが、住まい手も今まで住んできた住宅から抜けられない場合もよくあります。人それぞれ生活のパターンがありますから、今までの住まいの形をすべて否定する必要もありませんが、できればいろいろな



生活の仕方、住まいの考え方を知っていただきたく思います。依頼者の中には、1階は和室と広い対面式のキッチンをついたLDK、2階は寝室と子ども部屋2つ、できれば納戸があれば良いなどと住まい方ではなく形を決めてかかっておられるかたも多くあります。私達は、個性を重視した住まいを提案したいと思っています。吹抜を利用した開放性のある住まい、2階をリビング

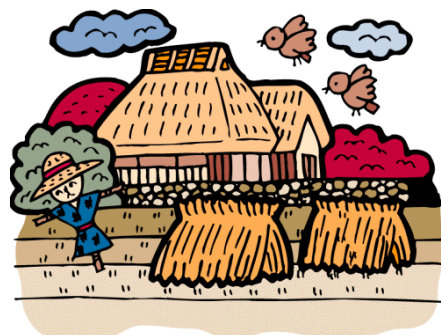


にした眺めや日当たりの良い住まいなど住まい方は無限にあります。できるだけ、自分にあった住まいをつくりあげていただきたいと思っております。そのためにも、施主の思いを十分に理解することが大変重要です。私達は資料や雑誌から取り出して資料化したイメージカードを利用しています。300サンプル以上ある写真データを利用し、細かな部分に対話により理解し合うことに努めています。また、当社は女性建築士が住宅を担当しております。家庭の細かな事柄など、より踏み込んだお話ができるよう、こまやかな配慮

を行ないたいと思っております。長く、気持良く住まい続けるためには、カーテンや家具なども演出物の一つです。照明器具の選定一つで、部屋の雰囲気はまったく違ったものとなります。私達は、インテリアも含めた提案を進めています。

日本の気候風土にあった住まいを提案します

日本の気候風土にあった住まいとは、景観の問題だけではありません。日本はご存知の通り、高温多湿な夏と冷え込みの激しい冬などの四季をもった国です。地方によっても、その気候はかなり違ってきます。このような気候風土にあった住まいは、全国一律販売の住宅メーカーの住まいでは対応は難しいと考えています。また、最近では冷暖房設備がほとんどの住まいで採用されていますが、多湿な日本の



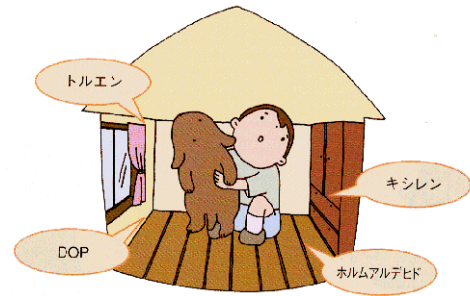
気候では壁の中に結露をおこしてしまうケースが最近よくみられ、構造体の腐りなどによる耐久性の低下をまねいています。合板を使った2×4住宅やプレハブ住宅では壁内結露を回避することは難しく、私たちは、日本で伝統的に建てつづけられてきている木造在来工法住宅をベースにさまざまな工夫や技術を加え、住まいをつくりあげていくことを基本としています。住宅は商品ではありません。人が生活するためにこつこつとつくりあげるものです。私達は耐久性があり、維持管理がしやすく、長持ちする住まいを提案します。住まいを長く使い続けることは個人の財産を



守るために重要なことですが、再生可能な資源である木材を、その成長に合わせて50～60年以上使用していくことは、地球環境を守り、日本で数少ない生産可能である資源の木材を有効に利用していく面から考えてもすばらしいことなのです。発展途上国の木材を無計画に伐採してつく

られる合板や、資源の枯渇が明らかである石油製品から造られるプラスチック類を多用する構法の住宅は問題が多いと考えています。

また、木を生かした住まいは健康にもさまざまな良い効果があり、木には調湿機能もあります。その性質を最大限活かすことに力を注いでいます。集成材を使うことも最近では多く見られますが、集成材は化粧の単板を表面に接着剤で貼りつけるために、木の良いところを殺しています。化粧材として利用すべきところはやむを得ないのですが、積極的には使わないように考えています。木造在来工法型メーカーハウスの集成材を利用した住宅は木に見える構造材を利用した住宅で、木造の利点を活かしたものではありません。集成材は狂いが少なく強度が若干強いといった利点があります。しかし、どちらかといえば、クレームを減らすために利用されているのではないかと私達は思っております。木は反ります。収縮します。割れます。昔から、日本の職人技術はその短所をできるだけ押え、長所を活かす工夫をしてきました。その技術が失われてしまわないうちに、職人さん達と一緒に良い住まいをつくりあげたいと考えています。



安全な住まい造りを提案します

地震や台風などの災害に強い住宅の構造は住まい造りの基本です。私達は、木造2階建て住宅であっても、コンピュータを利用し構造計算で安全性を確認しております。現在の建築基準法は木造建築物に少々甘い部分があります。以前は木造建物を構造計算で安全性を確かめることは非常に手間がかかったのですが、最近ではコンピュータを利用することにより、いろいろなパターンをシミュレーションし、確認することが簡単できるようになりました。それでも、巷ではまだまだ構造計算がされていないことを私達は残念に思っています。

住宅の構造体の安全性が構造計算で確かめても、地盤が悪いとどうにもなりません。悪い地盤の所は購入しないのが原則ですが、どうしても仕方がない場合は地盤調査を行なう必要があります。



一見では悪くない造成地でも調査すると問題のある場合は良くあります。私達が設計する住宅は必ず地盤の調査を行ない、地盤の補強の必要があるか確認しております。

安全な住まいといえば、最近では地震や台風だけでなく、使用される建材に使われる化学物質などによる健康被害が発生しています。近年、住宅の構造は省エネなどを考慮し、気密性が高くなってきました。昔のように木や土などを中心とした建築材料を中心に建設さ



れてきた場合は問題ないのですが、速さ、安さ、クレーム無し、メンテフリーなどを中心に考えられた建材は、化学物質を多用しているため、気密性が高いことにより問題物質が外部に抜けないため、問題として発覚することとなりました。化学物質過敏症やアトピーなどの健康障害の一因を住宅が担うこととなってしまいました。私達は、建材の安全性を常に学習し、できるだけ住まいに健康に害のあるものを持ちこまないように配慮しています。また、こういった事象は建材の存在のみによるものではなく、住宅の構造や計画の仕方により変わってきます。ハウスメーカーなどには健康に多少配慮した建材を利用することにより健康住宅と称している場合がありますが、健康に良好な住宅を造ることはなかなか難しい問題です。あらゆる方面から住まいを見つめなおし、根本的な考え方を再確認する必要があると考えています。

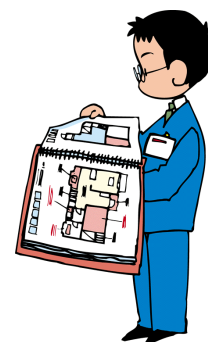
安全な住まいということの一面として、高齢者や幼児などに配慮した住宅が考えられます。いわゆるバリアフリー住宅ですが、最近のバリアフリー住宅は少しおかしいところがあると考えています。バリアフリーの考え方のなかの主なものに床の段差をなくす、手摺をつけるということなどがあります。確かにお年寄りにとって床のわずかな段差が障害となることもあるようです。よって、お年寄りが利用する状況が考えられる際はそのあたりの配慮が重要となります。しかし、最近ではバリアフリーという言葉や



中味が一人歩きし、何でもかんでも床の段差をなくすことが進められております。公共建築物のバリアフリー化はどんな方が利用されるか分からないため、必要なことですが、住宅においては住まい手が必要となったときに、必要な形での改造を行なうことが一番良いのです。床の段差がある楽しさを経験されたことがあるでしょうか。居間の中に段差のある部分を造って見たいと考えられたことは無いでしょうか。風呂の床が下がっていないために水が廻って土台が腐ったりすることがあります。手摺をつけたけど高齢者になってマヒした手のほうにしかついていなくて役に立たないとか、いろいろなケースがあります。大事なことは、高齢者としての配慮が必要となった時に増改築ができる構造の建物かどうかということです。つまり、すべての壁が構造体であり、規格化された型式住宅のプレハブ住宅や2×4住宅であってはいけません。あとで、改造がしにくいから最初から無駄であってもつけておかねばならないだけです。若いカップルが将来どのような状態が想定されるか分からないのに、わずかな住宅金融公庫の融資の割増を受けるために無駄使いをしなくても良いと思います。だから、私達が考えるバリアフリー住宅は住まい手の状況に応じた計画と将来改造ができる構造であり、改造するのに配慮されたプランであるかどうかを考えることぐらいです。

正確な見積り施工をするための図面づくりを行ないます

予算内で最良な住まいを計画することは最も重要なことから、住まい手の要望が十分盛り込めた計画ができて予算オーバーではどうにも



なりません。私達は、使われる建材の価格やかかる工賃の内容を十分把握し計画を進めると共に、



施工者に正確な見積もりを出していただくために各部屋ごとに詳細な内容の図面を作成し、施工中に変更や追加工事が少なくなるようにできるだけ配慮を行なっています。また、図面は建築関係者のための技術的なものであるため、一般的には分かりにくい点も多いように思われますので、コンピュータグラフィックを利用した完成予想図を作成し、「できあがってみたらこんな家だったのか」なんてことのないように工夫しています。

施主と共に施工者選びをお手伝いします



一般の方々には建築費というものは分かりにくいものだと思います。材料の良し悪しも表面的な内容だけではなく、性能、耐久性、安全性など数多くの事柄をふまえて値段の高い、安いを判断しなければなりません。また、住宅は工業製品ではありませんから、職人の技術の良し悪しや考え方一つでできるものは違ってきます。そのあたりを総合的に判断するために私達が手を貸すこととなります。私達は安いことを第1の売り物にしている業者さんはあまりよいとは思っていません。

安くて良いものというのは工業製品では考えやすいですが、工賃がかなりのウエートを占める住宅では同じ物を安く造るということは職人さんの手間代を削ることにつながります。建材で安いものを見るとどうしても安全性や将来性に問題のあるものになりがちです。根本的に安くすることはやはり難しいのです。どちらかといえば、丁寧な仕事を労力を惜しまず同じ値段でもやっていただけの工務店を探すことが大事ではないでしょうか。まして、営業マンをたくさん抱えている業者や広告宣伝に多くの費用を使う業者、住宅展示場に多額な経費を使い、おまけに見学者に景品を渡すような業者では、いくら、建材が大量仕入れで安価に仕入れできて重要部分にお金がかけていないので問題があるのではないかと私達は考えています。

現場監理により施工内容を確認します

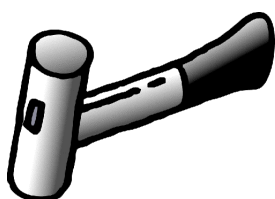
設計図をいくら数多く作成しても、十分表現しきれない部分があります。また、いくら努力しても施主の意向や設計内容が十分施工者に伝わらないことがあります。完成間近になって発見しても手直しするのが難しかったり、手直しするとかえって良くない結果になったりするケースがあります。そういったことが起こらないように監理することが重要だと考えています。施工業者の監督さんが行なう現場管理は材料の発注や職人の出



入などの管理など現場がスムーズに間違いなく進むためのもので、設計事務所が行なう監理は施主の代わりに監督する立場であるというように少し違う点があります。私達は常にやる気のある工務店や職人さんを探し、コミュニケーションをとることに努めています。施主、設計者、施工者が三位一体となって最も良い住まいができあがると確信しております。

最後に

私達設計者も常に良い住まいを造るために努力し、学習しています。ただ、学習はいつも書物にたよりがちで、経験や体験の部分にかけることがあります。経験していない事柄でも資料などを熟読することにより、ある程度こなしていけるのが設計士のよいところではあると思いますが、住宅や木材については職人さんからの知識や経験が重要な部分があります。よって、そのあたりが常に得られるように事務所にコミュニケーションスペースを設けています。また、現場に足しげく通うことにより、できるだけ情報を得ることに努力しております。また、体験としてしか得られないことを少しでも学ぶために、事務所に小さな木工室を設けています。そこでは現在使われている工具などを使い、伝統的な技術を少しでも体験できるよう、また、木の良さを少しでも体験できるように考慮しています。学問的だけでなく、木の良さを匂い、肌ざわり、色などについても心からその良さを住まい手に伝えられるように努力をしております。よろしければいっしょに木材や住まいづくりの一部分を体験してみませんか。



内容についてご不明な点がございましたらお問い合わせください



三和総合設計株式会社

大津市滋賀里 4丁目 11番 3号

TEL 077-525-4097

FAX 077-528-5460

<http://www.biwa.ne.jp/> sanwass/

E-mail:sanwa-ss@mx.biwa.ne.jp